

J-HPH Newsletter

No.18 | SEP 2021

日本 HPH ネットワーク事務局
〒812-8633
福岡市博多区千代5丁目 18-1 千鳥橋病院内
TEL:092-641-2761(代表)
<https://hphnet.jp> office@hphnet.jp



国際 HPH ネットワーク TOPICS

第 28 回国際 HPH カンファレンス 2021 (フランス・パリ)

2021 年 10 月 12 日 (火) オンライン開催

国際 HPH カンファレンス開催要項の翻訳版を掲載します(2021 年 9 月 1 日現在)。

国際 HPH カンファレンスは、1993 年以来、国際 HPH ネットワークのメインイベントとなっています。HPH の会員組織はもちろん、医療専門家、コンサルタント、研究者、学者、政策立案者のための、医療サービスにおけるヘルスプロモーションに関する学習と交流の場として、毎回、平均 500 人の代表が参加しています。

今回のテーマは、「**健康志向のヘルスケア管理システムの開発～ヘルスプロモーションはどのように健康利得を最適化し、より持続可能で公正なヘルスシステムを構築することができるか？**」

第 28 回国際 HPH カンファレンスはオンライン形式



で開催されます。ライブ配信は、2021 年 10 月 12 日 (火) にフランスのパリから実施します。参加登録者は、当日より 15 日間にわたり会議全体を閲覧でき、すべての本会議、パネ

ル・セッション、ポスター、パートナー・スタンドにアクセスできます。また、期間内は参加者と講演者との対話用チャット機能もご利用いただけます。

範囲と目的

国際 HPH ネットワーク(以下、HPH ネットワーク)は、ヘルスプロモーションのためのオタワ憲章(1986)の第 5 の戦略的行動領域の実施を支援し、「医療サービスの方向転換をおこなう」ために設立されました。それにより、品質に関する哲学や方法論、組織的変化を管理する技術に加え、エビデンス(証拠)に基づく手順を採り入れることにより、医療制度が急速に変化する社会における新しい医療ニーズに対応できるようにすることを目的としていました。

それから 30 年以上が経過し、医療サービスの方向転換というビジョンは、さらに有効で重要なものとなりました。人口の変化、次々に現れる新しい病気、臨床

目次

国際 HPH ネットワーク TOPICS	1
第 28 回国際 HPH カンファレンス 2021	
研究・資料	3
加盟事業所の取り組み	4
勤医協苦小牧病院	
高崎中央病院	
コープおおさか病院	
鳥取生協病院	
加盟事業所数	8
日本 HPH ネットワーク TOPICS	8
第 6 回 J-HPH カンファレンス 2021	
第 7 回 J-HPH スプリングセミナー	



ケアの進歩、ニーズと資源の格差拡大等にとって依然として有効であるばかりか、今や、健康格差の拡大、次々に進化するデジタル技術、困難なパンデミック、持続可能な社会の実現に私たちが果たす役割の重要性など、ますます関連性が深まっています。さらに、これまでに、ヘルスプロモーションの効果や、その効果が医学的介入を最適化するメカニズムを説明する知識、その費用対効果性に関するエビデンスも蓄積されてきました。しかし、ほとんどの医療制度は、依然として病気治療を中心に据えており、倫理的で持続可能で公正なヘルスゲインより、短期的な経済的成果に焦点をあてる方法で管理されています。

H P Hネットワークは、2021～2025年のグローバル戦略において次のビジョンを定めました：病院とヘルスサービスは、ガバナンスモデル、組織構造、作業プロセス、組織文化の方向性として、患者やスタッフ、人口のヘルスプロモーションの最適化と、持続可能な社会の支援をめざすこと。このような医療サービスの方向転換を実践するには、ガバナンスモデル、償還制度、アウトカム監視システムも変更する必要があります。

管理システムによる医療サービスの健康志向性 －何をなぜ？

第1本会議では、2つの基調講演により、次の課題に焦点を当てます。管理システムを通じた医療サービスの健康志向とは何を意味するのか。そして、なぜガバナンスモデルは健康志向であるべきなのか、また、健康アウトカム、倫理、経済的側面のバランスを取る必要があるのか。この複雑な問に答えるには、社会における健康ニーズ、医療制度研究、健康管理、患者・

家族・スタッフなどの利害関係者や奉仕する人口のニーズと価値、そしてヘルスプロモーションのビジョンなど、さまざまな視点を考慮に入れる必要があります。

管理システムによる医療サービスの健康志向性 －どのように？－優秀実践例のモデルと基準

第2本会議では、医療サービスが管理システムを通じて健康志向を実施する方法を、3つの基調講演により優秀実践例のモデルと基準を示して説明します。

パラレルセッションとポスターセッションでは、新しい2020 HPH 基準に関する一連のトピックおよび HPH タスクフォースと作業グループに関するトピックに関する発表と討論の場を提供します。

プログラム

カンファレンスでは、健康志向の医療管理システムの開発に焦点を当て、グローバルな経験と実践に関する情報の共有と交流の機会を提供します。2つの本会議では、有名な国際的専門家がカンファレンスのメインテーマについて講演します。さらに、メインテーマや H P H に関連するその他のトピックに関するオーラル発表やポスター発表など、豊富なパラレルセッションが予定されています。

10月12日のライブセッションの後、参加者は15日間にわたり、全ての発表、会議、ポスターを閲覧可能です。詳細プログラムは追って発表予定です。

第28回国際 HPH カンファレンス（公式ページ）

<https://www.hphconferences.org/paris2021/?L=0>

2021年10月12日（火）

07:30 - 08:00 CET（日本時間 14 : 30-15 : 00 以下 JST））プレイベント：バーチャル集会、案内、デジタル紹介・挨拶

08:00 - 08:15（15 : 00-15 : 15 JST）
カンファレンス開会式

08:15 - 09:30（15 : 15-16 : 30 JST）
本会議 1：管理システムによる医療サービスの健康志向性－何をなぜ？

09:30 - 09:40（16 : 30-16 : 40 JST）
運動休憩

09:40 - 10:40（16 : 40-17 : 40 JST）
（ミニ）オーラルパラレルセッション

10:40 - 10:45（17 : 40-17 : 45 JST）休憩

10:45 - 11:45（17 : 45-18 : 45 JST）
（ミニ）オーラルパラレルセッション

11:45 - 11:50（18 : 45-18 : 50 JST）休憩

11:50 - 12:50（18 : 50-19 : 50 JST）
（ミニ）オーラルパラレルセッション

12:50 - 13:00（19 : 50-20 : 00 JST）運動休憩

13:00 - 14:15（20 : 00-21 : 15 JST）
本会議 2：管理運営システムによる医療サービスの健康志向性－どのように？－優秀実践例のモデルと基準

14:15 - 14:25（21 : 15-21 : 25 JST）
カンファレンス閉会式

14:25 - 14:30（21 : 25-21 : 30 JST）休憩

14:30 - 15:30（21 : 30-22 : 30 JST）
（ミニ）オーラルパラレルセッション

15:30 - 15:35（22 : 30-22 : 35 JST）休憩

15:35 - 16:35（22 : 35-23 : 35 JST）
（ミニ）オーラルパラレルセッション

2021年10月13日（水）～27日（水）

全ての本会議、パラレルセッション、ポスター、協賛者スタンドを事後配信します。また、登録した参加者はチャット機能を利用可能です。

日本HPHネットワーク> 国際カンファレンス> 2021年案内

https://www.hphnet.jp/conference/2021_guide.html

研究・資料**書籍紹介**

『健康社会学～理論体系モデル試論』

島内憲夫著 垣内出版

2021年3月発行 定価：2,200円（税込）

ヘルスプロモーションの第一人者であり、健康社会学を日本で初めて標榜し、推進・発展させ牽引してきた島内憲夫先生の集大成ともいえるべき新書です。日本におけるヘルスプロモーションの概念を紹介し、その後の日本におけるヘルスプロモーションを牽引してきた島内先生の実践を歴史的に学び取るだけでなくJ-HPHの立ち位置を考え、J-HPHの今後の展開をとらえなおすのにも有意義な本です。ぜひご一読ください。



『格差時代の医療と社会的処方 病院の入り口に立てない人々を支える SDH（健康の社会的決定要因）の視点』

武田裕子編 日本看護協会出版会

2021 年 4 月発行 定価：3,520 円（税込）

健康格差をもたらす「健康の社会的決定要因（SDH）」に着目した医療と社会的処方について、J-HPH の加盟事業所や診療所、地域での具体的な実践例が紹介されています。その取り組みから、SDH の理論と実践を学ぶことができます。



こちらをあわせてお読みください。

「格差時代の医療者の役割とは」

上記の著編者の鼎談記事が掲載されています。
武田裕子氏（順天堂大学大学院医学研究科医学教育学 教授）、山中修氏（ポーラのクリニック 院長）、松本俊彦氏（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部 部長）
日本看護協会出版会 WEB サイト

<https://jnapcdc.com/LA/sdh/>

「コロナ禍での地域住民を対象とした健康づくり特集」

J-HPH 加盟事業所の健康づくりの動画資料を掲載しています。日本 HPH ネットワーク＞研究・資料＞コロナ禍での地域住民を対象とした健康づくり特集

<https://www.hphnet.jp/whats-new/9039/>

「医療・介護スタッフのための経済的支援ツール」・「症例事例集」

WEB サイトよりダウンロードいただけます。

<https://www.hphnet.jp/whats-new/5185/>

加盟事業所の取り組み

公益社団法人北海道勤労者医療協会 勤医協苫小牧病院

SVS（ソーシャルバイタルサイン）の取り組みを継続して

私たちは 2013 年、当院に通院していた一人暮らしの高齢女性の孤独死を経験しました。この女性はあるとき予約外来に来院せず、連絡が取れない状態でした。その際に病院が家族の存在や連絡先を知るまで数日を要し、地域包括支援センターが訪問した時には自宅ですでに亡くなっていました。当院の看護師はこの女性の物忘れが進行していることに気が付いていましたが、家族との連絡調整や介護保険の申請には至っていませんでした。

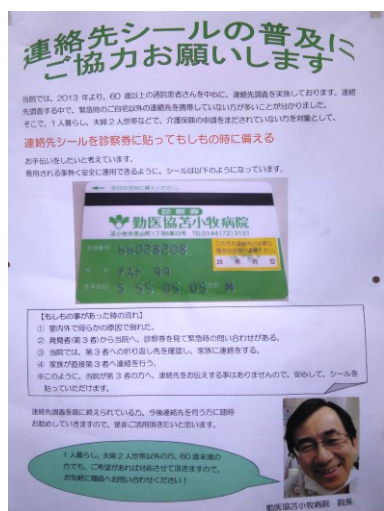
この教訓から、患者さんの変化に気づいたときに必要な支援者との連絡調整がスムーズに行えるよう、連絡先を把握しておく必要があると考え、2014 年から緊急連絡先など「SVS 調査」を開始し、患者さんへの聞き取り件数は 1,400 件を超えました。SVS はその方の生活背景や家族歴、緊急時の連絡先や、社会とのつながりなど、その方が社会の中で生きていくために必要なライフラインをソーシャルなバイタルサインと表現したものです。当院では集積した SVS データを職員同士で共有、電子カルテ内にも必要な記録をしています。あわせて、その方が何らかの原因で倒れた場合に当院からご家族に連絡が取れるように、診察券に貼付する「連絡先シール」の普及をすすめています。

この取り組みから一命をとりとめた事例を紹介します。

Aさん 80 代女性是一人暮らしで、糖尿病のため定期通院していました。これまで予約に遅れることはありませんでしたが、その日は予約時間に姿を見せませんでした。職員が自宅に何度も電話連絡をしましたがつながりません。診療時間は終了し、夜になっても連絡が取れず、心配になった職員が SVS 調査で聞き取りをしていた緊急連絡先の娘さんに連絡し、様子を見に行ってもらいました。

1 時間後、娘さんから連絡があり、市内の総合病院に救急搬送されたことがわかりました。Aさんは午前中に入浴したが浴槽から出られなくなり、娘さんが到着するまで 8 時間以上、浴槽の中で動けなくなっていました。退院後は同じことが起きぬよう、ヘルパーの導入やデイサービスでの入浴などが検討されました。

SVS 調査で緊急連絡先を把握していたことで、患者さんが大事に至ることはありませんでした。私たちの取り組みが患者さんを守ることに繋がったと確信しています。当院はこれからも住み慣れた自宅で安全に、そして安心して暮らし続けることを支援していきます。



写真左：もしもの時に備える連絡先シール

写真上：勤医協苦小牧病院

はるな生活協同組合 高崎中央病院

高崎中央病院外来看護部では、2021 年 3 月より SVS シートを作成し 80 歳以上の患者様を対象にアンケート調査を開始しました。

調査方法は、まず予約患者の中から受診日前日までに対象となる患者様をピックアップし、当日の待ち時間を利用してアンケートの記入をしていただきました。

調査内容は、家族構成について、病院への通院手段について、介護認定について、また生活上での困り事はないか、その他心配事など短時間で記入できる簡単なものにしました。記入はなるべく看護師が隣で聞き取る形で行いました。実際に行ってみて患者様からは「介護保険はまだ先の事と思っていた」「あんしんセンター（地域包括支援センター）は聞いたことがあるが連絡先など詳しく聞けて良かった」、対応した看護師からは「あんしんセンターの存在自体知らない人もいた」「患者背景を知る良い機会になった」などの声が聞かれました。

調査票は、後日 1 枚 1 枚確認作業をし、まず高齢者独居の洗い出し、高齢世帯（老夫婦、兄弟など）の洗い出し、80 歳以上の介護保険未申請の確認を行いました。

更に、患者様に対して A 緊急連絡先（本人もしくは家族に記入して頂く用紙を渡す）B あんしんセンター紹介（パンフレットを渡す、介入を依頼する）C 長谷川式スケール（医師より指示をもらい看護師が聞き取り）に分け、次回受診日に ABC それぞれ実施をしました。

これまでに 100 名を超える調査を終え、現在でも調査は続いています。得た情報は、電子カルテ内の患者プロフィールの中で情報共有することができます。

今回 SVS アンケート調査を実施した結果、運転に自信がないまま自家用車で通院をしていた人を院内の送迎サービス利用に繋げたり、必要に応じて MSW や地域のあんしんセンターへ介入を依頼するなど地域の見守り体制を整えることもできました。

今回は高齢者の方々を対象としたアンケートであったため、なるべく看護師が隣で聞き取る形を取ることで、

普段の通院だけでは知り得ることのできなかった情報について、また抱えている心配事などについて伺うことができました。

引き続き調査を続けていくことで、外来看護師も地域を見守る一員として一人一人の患者様と向き合っていきたいと思います。



ADL ID: 氏名: 生年月日: 次回受診:

◆80歳以上の方にお伺いしています。該当するものに☑を入れて下さい◆

家族構成について □一人暮らし □二人暮らし(配偶者・子・孫) □3人以上

施設 □施設

病院への通院手段 □徒歩 □自転車 □バス、タクシー □自家用車(自分で運転)

□自家用車(家族が運転) □当院の個別送迎

介護認定 □未申請→介護サービスの利用について興味がありますか? □ある □ない

□申請済→介護度について □要支援 1・2 □要介護 1・2・3・4・5

□不明

生活上での困り事がありますか? (↓当てはまる物全てに☑をして下さい)

□買い物 □洗濯 □食事の支度 □入浴 □お薬の管理 □階段の上り下り

□耳が聞こえづらくなった □物忘れが気になった □目が見えづらい

□医療費に関する不安 □目が見えづらい

◆その他心配な事などがあれば、ご記入ください

ご協力ありがとうございました(記入日)

患者様緊急連絡先

患者様氏名: ID

電話連絡先

1 氏名: 続柄

電話番号: 市町村

2 氏名: 続柄

電話番号: 市町村

※緊急で受診した際や入院になった際に、必要な情報を得る目的以外では利用しません。
連絡の取りやすい電話番号を優先順位の高い方から記入してください。
この用紙は、次回定期受診時に職員へお渡しください。

高崎中央病院 TEL 027-323-2665 (代)

写真上：高崎中央病院 聞き取りの様子

生活協同組合ヘルスコープおおさか コープおおさか病院

すこしおチームの取り組み

健康を害する要因として塩分摂取が挙げられています。塩分の摂りすぎは「高血圧症」になりやすく、血圧が高くなれば動脈硬化がすすみ「脳卒中」「心臓病」を引き起こす可能性があります。ただ、そういった病識はあったとしても減塩に対する知識は、まだまだ職員には浸透していない現状があります。

コープおおさか病院では、2017年からHPH活動としてすこしおチームを発足し、医師・医事課・管理栄養士がメインとなって、すこしお運動推進に力を入れています。

やみくもに塩分を減らすことはおいしい食事に繋がりません。結局続かず元の食生活に戻ってしまいます。おいしく健康に「少しの塩で健やかな生活を目指す」取り組みを職員に知ってもらい、実践してもらえるように活動しています。

活動のメインは2か月に1度発行している「すこしお通信」です。年度初めは「すこしお」について知らない新入職員に向けてすこしお運動や、すこしおチームについての紹介を行います、そのあとはすこしおチームで話し合い「高血圧の基準について」「塩分表示の見方」「減塩テクニック」などテーマを決めて記事にしています。

他にも減塩のこと、食塩のことを身近に感じて貰えるように市販の冷凍食品や缶詰に含まれる塩分量を紹介したり、塩分チェックや塩分クイズなどで職員自身が食生活の振り返りを出来るように工夫しています。

記事には管理栄養士が考案したすこしおレシピも掲載しています。自宅にある調味料やどこにでも売っている食材を使って簡単に調理できて美味しい、しかも減塩!!な料理を紹介するように心がけています。

今後は24時間畜尿塩分摂取量の調査結果の報告もしていく予定です。1年に一度、全職員対象にすこしおアンケートを行い、すこしおに対する意識調査を行っています。減塩で気を付けていることがあるか?の質問に対して「ある」との回答が、一昨年48%から63%まで増加したのはチームとしても嬉しい限りです。

しかし、すこしお運動の 1 日塩分摂取目標量が 6g であることの認識がまだまだ薄い結果になりチームとしての課題も見えてきました。チーム一丸となり職員の食生活に減塩が当たり前になるように活動していきたいと思います。



写真上：コープおおさか病院「すこしお通信」

写真下：すこしおチーム会議の様子

原稿募集 | 加盟事業所の取り組み

皆さんの事業所の HPH の取り組みをご紹介します。お寄せいただいた原稿は、ニュースレター、J-HPH WEB サイトの「加盟事業所の取り組み」にご紹介させていただきます。原稿（800 文字～1,000 文字程度）と活動の様子が分かる写真 2 点を事務局までお送りください。原稿をお待ちしています。E-mail:office@hphnet.jp

鳥取医療生活協同組合 鳥取生協病院

鳥取生協病院では、2019 年 5 月に日本 H P H ネットワークに加盟し、院内に H P H 推進委員会を立ち上げ、1 職場 1 H P H 活動の推進や救急外来患者に対する「医療・介護スタッフのための経済的支援ツール」を活用した問診など、様々なヘルスプロモーションの取り組みを進めてきました。

2021 年度は、岡山協同病院の取り組みを参考に、病院全体でノーリフトを中心にした職員の腰痛予防対策に取り組むこととし、4 月に腰痛発生率の現状を明らかにするための全職員アンケートを実施しました。

アンケートの結果では、職員の 72.9%が何らかの腰痛を感じており、その傾向は事務系より医療職に強く、とりわけ看護師においては 83.6%と多くの職員に腰痛が発生していることがわかりました。腰痛を感じる姿勢としては、中腰（67.7%）や前屈み（61.8%）で多く、立位（34.4%）でも痛みを感じていました。

また、腰痛を感じる業務としては、車椅子・ベッド間の移乗介助（48.6%）、おむつ交換（46.1%）、身体清拭（33.1%）などのベッド周辺での身体ケア以外にも、物の搬送（21.2%）、カルテ記載（18%）などでも腰痛を感じていることがわかりました。

現在は、これらの腰痛アンケートの結果をもとに、より効果的な腰痛対策の方法を提起できるように、保健師と理学療法士を中心とした腰痛ラウンドを実施しています。腰痛ラウンドの結果では、おむつ交換時にベッドの高さが低いままケアを実施していたり、ベッドからストレッチャーへの移乗の際に複数人で持ち上げることで移乗していたりと、腰部に負担がかかる方法でのケアが散見されました。またケア以外の場面でも、立位姿勢で軽度前傾位となり長時間カルテ記載や配薬準備を行っているなど、腰部への負担を軽減することができる場面も多く見られています。

今後は、各職場に腰痛予防リンクスタッフを配置して、リンクスタッフを中心にノーリフトやその他の腰痛予防対策についての学習を進めていくことを計画しています。忙しい業務の中、ノーリフトなどの腰痛予防対策

に取り組む目的や効果の共通認識がなければ業務への定着は難しいと考えています。学習を進める中で、腰痛予防対策が自分たちの身体的負担を軽減するだけでなく、患者の安心・安全なケアにも繋がることを共通認識にしながら、現場が効果を実感しやすい腰痛予防対策から導入していく予定です。



写真上：鳥取生協病院の腰痛ラウンドの様子
写真下：HPH推進委員会の様子

加盟事業所数

加盟事業所数 2021年8月25日現在

119 うち準会員2事業所

内訳：病院 72・クリニック 14・薬局 7・ヘルスサービス研究機関 25

HOME>加盟事業所一覧

<https://www.hphnet.jp/list/list.html>

日本 HPH ネットワーク TOPICS

第6回 J-HPH カンファレンス 2021

ポストコロナ時代を展望する～ヘルスプロモーションを通して公正な社会づくりに貢献する～

COVID-19 の感染流行は 1 年半ほどを経過しています。今回も含め 4 回にわたる緊急事態宣言の発出を余儀なくされるほど、繰り返し感染に襲われました。医療と介護の現場では、感染のリスクに不安を感じながらもスタッフは懸命に従事してきました。一方、働く場を失い困窮状態に陥る人達や困窮のために医療にアクセスできない人が増加するなど、日本社会の綻びが可視化されてきました。そこで、ヘルスプロモーションの視点でコロナ禍で経験した課題を整理し、コロナ収束後の社会を公正な社会とするためにヘルスサービスが貢献すべき課題について議論することにしました。多彩なプログラムを用意していますので、皆様のご参加と視聴をお待ちしています。

【オンデマンド配信・ポスターセッション掲載期間】

2021年10月30日（土）～11月28日（日）

▶あいさつ

「カンファレンスの企画のねらい」

尾形和泰（日本 HPH ネットワーク運営委員）

▶基調講演 1

「ポストコロナ時代に求められるヘルスプロモーション～健康社会学の視点で～」

島内憲夫（日本 HPH ネットワーク CEO・順天堂大学名誉教授・医学博士・広島国際大学客員教授）

▶基調講演 2

「農民・住民とともにあゆむ医療～佐久総合病院の経験からポストコロナ時代のあるべき医療と社会を語る～」

伊澤敏氏（JA長野厚生連 佐久総合病院 臨床顧問）

▶特別講演

「台湾の HPH における COVID19 への対応」(仮題)

講師：WANG Ying-Wei (ワン・インウェイ) 氏

(前 台湾厚生省健康推進局長・前 台湾 HPH
コーディネーター) * 日本語字幕あり

▶ポスターセッション

今回のカンファレンスでは、PDF ポスターをウェブサイトに掲載します。カンファレンス参加申込いただいた方は、掲載期間中はいつでも WEB 上で演題を閲覧することができます。抄録募集要項・ポスター作成要領は、ウェブサイトをご覧ください。

【ポスターセッション抄録登録期間】

2021 年 9 月 1 日 (水) 10:00~10 月 8 日
(金) 15:00

【ポスターデータ送付期限】

2021 年 10 月 15 日 (金) 締切厳守
ポスターセッション演題募集要項、ポスター作成要領
は WEB サイトをご参照ください。

【LIVE 企画】(zoom)

2021 年 11 月 13 日 (土) 13:00~17:10

プログラム

13:00-13:06 開会挨拶

13:06-14:36 パネルディスカッション

「コロナ禍の健康格差解消の実践とこれからの課題
～ヘルスサービスと地域の現場から～」(仮題)

パネラー：稲葉 剛氏 (一般社団法人つくろい東京ファンド
代表理事・立教大学大学院 21 世紀デザイン
研究科 客員教授)

パネラー：大平路子氏 (社会医療法人同仁会
耳原総合病院 サポートセンター 医療福
祉相談室 MSW)

コメンテーター：近藤尚己氏 (京都大学大学院
医学研究科 国際保健学講座社会疫学
分野 教授)

14:50-16:50 ワークショップ

WS 1「LGBTQ と医療について学ぼう」(定員: 36 名)

WS 2「コロナ禍で露呈したアルコール問題への対応を
地域で考える」

WS 3「在留外国人の人権と健康問題について考える」
教育講演「COVID-19 実践リポート」

17:00-17:10 ポスター表彰・閉会あいさつ

【参加申込み】

2021 年 9 月 1 日 (水) 10:00-10 月 25 日 (月)
15:00/振込期限 10 月 28 日 (木)

【参加費】

HPH 加盟の方 5,000 円

HPH 非加盟の方 7,000 円

大学生・大学院生 1,000 円



【注意事項】

- ・ 本カンファレンスのオンデマンド企画は、視聴ページの URL、パスワードを参加費をお支払いいただいた参加者のメールアドレスのみに送付いたします。
LIVE 企画は Zoom で開催します。1 名につき 1 アカウント (メールアドレス) が必要です。参加者ご自身の接続環境や操作法に起因するトラブルは当ネットワークは責任を負えませんので、ご了承ください。視聴情報を転送・共有することは、固く禁止させていただきます。
- ・ LIVE 企画の Zoom の ID・パスワードは、参加費のお支払いをいただいた方に後日ご登録のメールアドレスにお送りします。
- ・ 参加費ご入金後の返金はい行いませんので、予めご了承ください。

第 7 回 J-HPH スプリングセミナー
(オンライン開催)

2022 年 3 月 5 日 (土)

詳細が決まり次第、ご案内します。

